

教科【道徳】・種目【道徳科】

書名 項目	<h2>新訂 新しい道徳</h2>	2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東 書</div>
内 容	<p>＜道徳科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主題名（内容項目に関連したテーマ）がすべての教材冒頭に示されており、ねらいからそれぞ授業を展開することができる。 ○教材最後の「考えよう」では、ねらいに関わる中心的な発問が、「自己を見つめよう」では、自分自身を振り返らせる一般化の設問が提示され、学びのヒントになっている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生命尊重といじめ問題については、3つの教材を1つのユニットにし、テーマを通して様々な視点から多面的・多角的に学習できるようになっている。また、いじめ問題対応ユニットの3時間目は、生徒の自由な考えを引き出せるよう、特定の内容項目を設定していない。 ○伝統・文化や情報モラル、キャリア教育、オリンピック・パラリンピック教育を始め、人権・平和、環境資源、防災安全、国際理解、多様性など多様な教材から生き方についての考えを深められるよう工夫されている。 <p>＜発達段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同一の内容項目の教材が、3学年の発達の段階を考慮して配置され、学年ごとにねらいを深めていけるよう系統的に学習が構成されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「道徳の授業はこんな時間に」では、話合いの手順やルールが具体的に示されている。折り込みページになっているため、広げながら学習の際に参照できる。 ○ユニット学習の他に、1つの教材で複数時間を設定しているものがある。1時間目にねらいに関わるテーマについて問題を発見し、2時間目には1時間目で考えたことをもとに登場人物の行動から話合いを深めていく。これらの中には、問題解決的な学習の工夫や役割演技などを含めた道徳的行為に関する体験的な学習が含まれている。役割演技や話合いの進め方がわかる内容を教材の後に資料として取り入れている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を豊富に扱い、新聞教材やマンガ教材、小学校で取り上げた教材を活用し、テーマについて様々な視点から考えを深める工夫がされている。各学年5教材、テーマを考える際の材料として冒頭に、漫画の1コマや投げかけの言葉が掲載されている。 ○「感動・畏敬の念」を扱う教材では、写真が大きく掲載されており、大自然の迫力が伝わりやすくなっている。 ○裏表紙には、デジタルコンテンツを使って関連資料が活用できるよう、ページ番号とコンテンツ内容の表が提示されており、QRコードやアドレスからインターネットを通して閲覧できる工夫がされている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○目次では4つの視点を色別に表示したり、教材冒頭では導入部分がどの視点に当てはまるのか、色のついた帯とマークで示したりしている。 ○用語の注釈がある場合は、本文に番号で示している。複数の教材が1つのテーマに位置づけられている場合は、テーマのページに教材名と登場人物が提示されている。 ○各教材の下欄に生徒が自由に記述できるつぶやき欄がある。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に心情円やホワイトボード用紙が付録としてついている。使用が効果的と思われる教材のページの左横には記号が示されており、本時に関連した資料や教科、心情円の効果的な活用ができるよう工夫されている。 	

教科【道徳】・種目【道徳科】

書 名 項目	<h2>中学道徳 とびだそう未来へ</h2>	17 教出
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <p>○「学びの道しるべ」では、道徳的諸価値に関わる場面の発問、ねらいに迫るための中心的な発問、さらに自分自身の生き方に関わる発問など、教材にふさわしい3つの問いが設定されており、「何を、どのように」考え、話し合っていくのか、学習の流れがわかりやすく示されている。また、教材冒頭には、導入として、ねらいに関わる問いかけが入っており、教材を通してどんなことを考えていくのか、問題意識をもって学習に取り組めるよう、また見通しをもって学習に臨めるよう工夫されている。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○生命尊重・いじめ人権・キャリア社会参画・情報モラル・伝統文化・安全防災・自然環境などの教材を豊富に設定している。特にいじめ問題や生命尊重については複数組み合わせたユニットをつくり、3年間を通して繰り返しスパイラルに学習できるよう工夫されている。取り上げている内容は、かなり現代的かつ現実味あるものである。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○情報モラルについて考える教材、「けやき中」を舞台にしたシリーズ教材など、3年間を連動させ、系統的に学びを深める教材配置になっている。</p> <p>○生活に即した教材を1年から3年まで系統的に取り上げ、学びを積み重ね、発展させている。1年では自分自身に関すること(A)の教材を多く扱い、学年があがるにつれて、人との関わり(B)や集団や社会との関わり(C)の比重を増やす工夫がある。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <p>○道徳の学びを深めるために、1時間の学習がイメージできるよう、見開きで示されている。また1年間の教材の並びが、生徒の心情の変化に寄り添った配列となっていたり、1年間を通してどのように学んでいくのかがつかめるよう、テーマごとに関連教材が示されたりしている。</p> <p>○「やってみよう」では、その直前の教材に関連してつくられており「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れた内容となっている。日常の体験を想起して話し合ったり、役割演技を取り入れたりした学び方の例が示され、道徳的諸価値の理解を生活の中での行為や習慣に結び付けていけるよう工夫されている。</p> <p>○1枚の写真から考えさせたり、SNSの問題や裁判員制度、歩きスマホ、震災復興、臓器提供、背景のある歌詞など、様々な視点から現代的な課題について考えさせたりしている。また、漫画や新聞記事、絵本、歌詞などの多種多様な教材を掲載し、内容を分かりやすくし、全員が話し合いに参加し、考え合えるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○どの内容項目をどの教材で学ぶのかを示した一覧表が掲載されている。</p> <p>○「まなびリンク」マークから関連サイトにアクセスし、より詳しい情報を得ることができる。教材の学びをさらに深め、広げることができる。</p> <p>○人物の生き方について各学年9～10教材取り上げている。</p>	
表記・ 表現	<p>○難しい言葉には注釈を入れている。文字は太字で目立たせている。</p> <p>○各教材に4つの視点のどれに該当するかを色と絵柄で区別できるようにしている。</p>	
総 括	<p>○巻末に各教材の授業の感想を記録するページや各学期と1年を通して学びの振り返りをするページが入っている。また1年間を通して自分の成長を確かめ、これからの自分を見つめていけるよう工夫されている。</p>	

教科【道徳】・種目【道徳科】

書 名 項目	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき	38 光 村
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○22項目の確認とともに、1年間のスタートにあたって、学びを見通し、目的意識をもって授業に向かえるよう、各学年に「道徳の授業を始めよう」が設けられている。また、教材の最後には、1年間の学びを振り返り、これまでの自分の成長やこれからの生き方を見つめられるよう「道徳の学びを振り返ろう」のページが掲載されている。 ○「見方を変えて」では、2つの発問とは違った、別の視点（多面的・多角的な見方や考え方）から考えるための問いが設定されている。また、「つなげよう」では、他教科や日常生活との関連、考えをさらに深めるための問いなどが示されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育、国際理解教育、共生については内容が充実しており、それぞれの教材の後にコラムが掲載されている。また、人権、情報モラル、いじめ問題、SDGs等についても、自分の問題として考えられるようさまざまな教材を配置している。 ○「社会との関わり」や「働くこと」など、関連する複数の内容項目の教材をユニット化し、1つのテーマを多面的に考えられる工夫がされている。 ○全学年にわたって、「生命の尊さ」に力点が置かれており、全学年に「生命の尊さ」をテーマとした教材が3つずつ位置付けられている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びを実現するために、1学年に4か所ある「深めタイム」では、学んだ内容を、実生活の場面を想定し、自分の経験や自分自身のことに関わらせて考えられるよう設定している。特に「いじめ問題」と「情報モラル」については、全学年に「深めタイム」を設け、3年間を通してじっくりと考えられる工夫がある。 ○「人と人との関係づくり」を重視し、各学年にコラムを2資料ずつ入れ、1学期5月頃に設定している。他者とよりよく関わるスキルやコツを学ぶ工夫がされている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学びの道筋が分かるよう、「考えよう」では学習のめあてと発問が提示され、発問は課題につながる発問とねらいに迫るための発問の2つで構成されている。 ○問題解決的な学習では、課題を設定し、教科書の発問を通して、自分の考えや話し合ったことが書き込めるようになっている。また、各学年に1教材、「見方を変えて」の中で役割演技の取組を提案している。生徒が演じる時や生徒が演じる様子を見るときに意識してほしいポイントも示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○付録には、補充教材や小学校で扱った教材、学びを広げるための教材が入っている。また3年には人生目標年表があり、将来について考えさせる資料となっている。 ○教材冒頭のQRコードから、様々なコンテンツ（参考資料、参考動画、朗読、ウェブサイト）につながり、活用できるようになっている。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ一覧で各教材がどのような課題と関連があるのかを明記しており、見通しをもって学べるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの記録が1時間ごとに記録できるよう、ポートフォリオ形式になっている。 ○全体の構成は、各学年とも1年間が3シーズンに分かれている。どの学年も「自らの在り方を見つめる→広い視野で→振り返りと次年度への意識づけ」の流れで設定され、すべてを関連付けて学べるよう、テーマのあるユニット学習で構成されている。 	

教科【道徳】・種目【道徳科】

書名 項目	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日 文</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習にあたり道徳科で学ぶことや1時間の中での学び方が絵や写真で示されている。また、各教材の冒頭に主題名と登場人物が絵や写真で示されており、導入と内容把握をスムーズに行える工夫がある。 ○学習した内容を他教科等に広げたり、考えを繋げたりするための資料が各学年6～7取り入れられている。また、作者から生き方についてのメッセージや教材に関わる資料も多数組み込まれており、生徒が生き方を考える上でのヒントとなっている。 ○発問例が2つ精選されて示されており、ねらいに迫るための発問（考えてみよう）と学んだことを前向きに自分に生かすための発問（自分に+1）を活用することができる。 <p><現代的な課題などの題材を取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ユニット学習としていじめ問題やよりよい社会を創造する（障がい者理解、高齢者福祉、消費者教育、法教育、人権教育など）内容が取り上げられ、「よりよい社会と私たち」では、社会と生徒自身の生き方との関わりや社会への参画、将来の生き方について考えるきっかけを与えている。ユニット「いじめと向き合う」では、いじめを間接的に扱った教材も組み合わせ構成している。いじめの認知件数が多い1年には年間3か所、2・3年は2か所にユニットが配置されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ユニットのはじめのページには、ユニットのテーマに関わる教材が見通せるように学習のねらいとともに見開きで示されている ○ユニット「よりよい社会と私たち」が1年生で年2回、2・3年生で年3回配置されている。ここでは、「社会への参画」「将来の生き方」の視点から、生徒にとって身近な問題や社会で活躍する人々についての教材などがユニット化され、多面的・多角的に考えられるように工夫されている。3年生のユニットの最後には、高等学校の新設科目「公共」への接続を意識したコラムが設けられている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめに関わる内容やよりよい社会を創る内容については、多面的・多角的に考えられる異なる内容項目の教材を集めてユニット化し、一定期間に集中して学べるよう工夫されている。多様な視点から一つのテーマについて学ぶことができる。 ○一つの出来事を二人の視点で別々にとらえる教材があり、複数の内容項目を総合して自分の生き方を多面的・多角的に捉え、深く考えられる工夫がされている。 ○問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材については、教材の次のページに「学習の進め方」の例があり、授業の流れがイメージしやすくなっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真は、全体的に大きめに掲載されている。地図もこまめに掲載されている ○デジタルコンテンツは、一括して目次のリンクから活用することができる。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習の流れを3つの段階に分けて教材を配列したり、細かくテーマ別に教材をまとめたものを目次の後のページに示したりしている。 ○内容項目の4つの視点や資料等については、色とマークでわかるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○本冊とは別に別冊があり、別冊では、35時間を1ページずつ細かく記録できるようになっている。自分の考えだけでなく、友達のことをメモする欄を設け、他者との意見の交流も促すなど、必要に応じてノートを工夫して活用できるようになっている。 	

教科【道徳】・種目【道徳科】

書名 項目	新・中学生の道徳 明日への扉	224 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学 研</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <p>○複数の教材を一つのユニットとしてまとめたものが目次に色で示されており、共通のテーマについて異なる視点から多面的・多角的に人間としての生き方についての考えを深められるよう工夫されている。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○SDGs や情報モラル、キャリア教育、いじめ問題、防災、食育、人権、福祉、様々な分野で活躍する人々の生き方など、身近な問題を幅広く取り上げている。また、いじめ防止につながる教材については、様々な内容項目から自他の生命を尊重し、他者と共によりよく生きることについて多面的・多角的に考えられるよう配慮されている。「SDGs」と「キャリア教育」については、全学年でユニット学習としている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○教科書の巻頭に道徳の授業への向き合い方「考えを深める四つのステップ」が示されており、「深めよう」の中でステップごとに具体例を提案している。</p> <p>○「命の教育」を重点テーマとし、各学年3本ずつ教材を掲載している。「命」が関連価値となっている教材にも、目次や本文の題名にマークをつけ、「命」についてさまざまな視点から考えられる工夫がされている。また、いじめに関わる内容についても、様々な視点から問題提起を行い、考えられるような工夫がされている。資料の「クローズアッププラス」では、生命尊重やいじめ防止につながるメンタルトレーニング等を各学年3資料ずつ取り扱い、学びに厚みを加えている。情報モラルに関しては、学年ごとに2教材ずつ用意されており、そのうち1教材は同じテイストのイラストが用意され、発達の段階に合わせて系統的に問題提起を行っている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <p>○「考えよう」では、これからの生き方について考えるきっかけとなる問いを2つ提示している。また「深めよう」を活用して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験学習が行えるよう、具体的な進め方が提示されている。</p> <p>○様々な分野で活躍する人物や偉人を数多く取り上げ、自分自身の生き方につなげる工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○教材の価値項目に関連した資料を1年21、2年19、3年17教材用意し、さらに異なる視点からねらいに関わる生き方を考えさせるきっかけを作っている。</p> <p>○教材を通して考えるために役立つと思われる、絵や写真、グラフ、地図などバラエティーに富んだ素材が多く、かつ大きく使用されており、生徒の自由な発想・思考を促す資料となっている。また、目次にデジタルコンテンツ一覧へのリンクがある。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○4つの視点マークを明示し、目次やタイトルでわかりやすく視点別に配色している。</p> <p>○教材名のところに主題名を示さないことで、特定の価値観を押し付けず、生徒自らの気付きや考えを促し、同時に授業者が主題名の使用法を自由に運用できるように構成されている。また、教材下欄には、生徒のメモ欄が設けられ、自由に記述できる。</p> <p>○「?ボックス・!ボックス」では、授業をガイドする問いかけが示されている。</p>	
総 括	<p>○QRコードから、関連する資料を見たり聞いたりすることができる。</p> <p>○巻頭のマイプロフィールから巻末の心の四季、最巻末の学びの記録と評価の参考となる資料が入っている。「学びの記録」は、学期ごとに振り返れるよう工夫されている。</p>	

教科【道徳】・種目【道徳科】

書 名 項目	中学生の道徳 中学生の道徳ノート	2 3 2 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">廣あかつき</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫> ○道徳の時間ではどう学ぶかについて学習内容を具体的に見開きで説明している。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○共生、インクルーシブ教育、人権、情報、防災などの持続可能な社会の実現に向けた教材が配置され、多様な角度から考えられるようになっている。また、裁判員制度や社会問題となっている内容について深く考えさせる教材が組み込まれている。 ○各学年に「いじめ防止」に関わる読み物教材を掲載し、教材に合わせて、様々な視点から考えるための資料を配置している。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○各教材には学びの道筋となる「考える・話し合う」が掲載されており、「学習の手がかり」では学習の「めあて」と教材について考えるための「問い」が、「考えを広げる・深める」では、ねらいに迫るための発問や考えを広げるための発問、自分との関わりで考えさせる発問等が設定されている。ねらいとする道徳的価値についてより考えを深め広げる工夫がされている。また、生徒と年代の近い主人公や筆者の作品を掲載し共感しながら考えられるよう工夫されている。 ○教材の他に、補助資料が本冊と別冊に掲載されており、教材と合わせて活用することで学びを広げ、深めることができるようになっている。別冊には、グラフや絵、図も多く取り入れられている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○学習の手引きが具体的に示されているため、教師にとっても、生徒にとっても見通しをもって授業に臨めるよう工夫されている。また、学習の手がかりに本時の目あてとなる内容が明示されているため、話合いの方向性が見えやすい。 ○問題解決的な学習を促す教材が複数あり、指導方法の工夫により実践ができる。 ○道徳的価値に根差した問題を生徒が見つかり、多面的・多角的に考えながら話合いを通じて課題を追求したり、自分なりに道徳的価値のよさを理解し、発展させたりしている教材が多く掲載されている。 ○役割演技や動作化、追体験など、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、道徳的価値についてより深く考えられる教材が掲載されている。</p>	
資 料	○各教材の最後には先人の言葉が掲載され、生き方について考えるきっかけとなる。 ○別冊にて関連資料が用意されている。図やグラフも含まれている。 ○本冊の巻末には、いじめ、情報、持続可能な社会の実現についての資料が全学年に入っている。また、補助資料（映像や写真）が参照できる WEB コンテンツは、目次から一括して活用することができる。	
表 記 ・ 表 現	○1年生の教科書は、2・3年生に比べると活字の大きさが大きい。 ○各視点を4色に色分けして、様々なページで線によって色分け表記している。 ○別冊の資料教材は、導入や終末でも活用が可能である。	
総 括	○本冊と別冊が用意されており、別冊にて35時間の心の記録、及び振り返りを自由記述にて行うことができる。また、一つ一つの教材について、学習した日にちと、心に残ったかどうかを表すチェックシートがあり、これらの学習の記録を評価につなげる工夫がされている。生徒の学びの足跡となる学習の記録や振り返りを重視している。	

教科【道徳】・種目【道徳科】

書 名 項目	<h2 style="font-size: 2em;">道徳 中学</h2>	2 3 3 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 科</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業についての1時間の学びの過程がはじめの見開きに示されており、どんなことを学ぶのか、どう学ぶのかが一目でわかるようになっている。次ページには、教科書の使い方を含め、一年を通しての学びの方法が示されている。 ○「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」では、道徳的価値に関わる問題についての問いやねらいに迫る発問が用意されており、生徒の思考を揺さぶり、多様な価値観及び見方・考え方を引き出せるような工夫がされている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供達がこれから必要とされる道徳性の育成を意識し、人権や福祉、環境、人間関係、社会参画等を始め、LGBT問題やインクルーシブ教育に関わる問題など幅広く教材として取り上げ、道徳的価値を基盤とした価値観の多様性に向き合える工夫をしている。 ○「いじめをなくす・生命を尊ぶ」ための教材が1年生で4教材、2年生で2教材、3年生で3教材、掲載されている。「正義」「寛容」「人権」「人間愛」などさまざまな教材の主題から「いじめを許さない心」の育成を目指している。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年をまたいで、一つのストーリーが教材として設定されている。オリジナル教材も多く、各学年の生徒の実態に応じた日常生活における友情や異性に関わる諸問題に対して、生徒が興味をもって真剣に向き合える工夫がされている。 ○キャリア教育の視点から、キャリアの発達の段階の連続性を配慮した教材が各学年に掲載されており、学年間のつながりが考慮されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題を投げかけたり、主人公の思考が途中で終わる文末にしたりなど、生徒が自然と道徳的な問題を考え出せるよう教材が工夫されている。また、新聞記事や投書欄など、身近な内容を積極的に教材として取り上げることで、自分事として考えたり、自然と議論につながったりするような工夫がされている。 ○ネット社会の人間関係形成を学ぶため、インターネット・コミュニケーションについて、自分事として話し合うことができる教材が掲載されている。 ○教科書に記述して考えさせる教材が、各学年に1～2教材設定されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○法律についても、必要に応じて資料として取り入れている。(障害者差別解消法) ○各学年に7～12のコラム等の資料が用意され、考えを深めたり、発展させたりする手助けとなっている。 ○学習指導要領による四つの視点が色分けされており、目次やそれぞれの教材のタイトルカラーの色でわかるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○目次は、内容項目順に配列されている。タイトル番号も内容項目内の番号と対応しており、各学校が掲載順に縛られることなく、自由に教材を生かし、独自のカリキュラムが組めるようにしている。 ○巻末に各教材と学習指導要領対応表が掲載されており、各学年で学習する教材名と内容項目が一覧でわかるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末には、見開きで一年間の授業の振り返り及び自己の心の成長が記録できるよう、自己評価欄や記述欄を設けている。 	